

## 令和4年度第2回安城市農業振興協議会 議事録

令和4年9月20日（火）

午後2時より

安城市本庁舎3階第10会議室

事務局：ただ今から、令和4年度第2回安城市農業振興協議会を開会いたします。本日は、お忙しいところ、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。はじめに、会長であります、林茂樹様より、ごあいさつをいただきましたと思います。林会長、よろしく願います。

林会長：あいさつ

事務局：ありがとうございました。さて、本日の会議であります。鬼頭委員が所用によりご欠席となりますが、代理として愛知県西三河農林水産事務所農業改良普及課の片岡課長補佐にご出席いただいております。出席委員の数について、本協議会規則第3条に定める要件を充たしますので、本日の協議会は成立することをご報告します。

なお、本協議会の議長は、本協議会規則第3条において会長が務めることとなっておりますので、林会長に議長をお願いいたします。

林会長：それでは、「議題 第3次食料・農業・交流基本計画の素案について」、事務局より説明願います。

事務局：説明

林会長：ただいま説明がありました「議題 第3次食料・農業・交流基本計画の素案について」、ご意見などがございましたらご発言願います。

匿名委員：個別施策の「環境に配慮した水稲直播の推進」において、温室効果ガス（メタン）発生の低減とあります。稲作を直播にすると温室効果ガスが減るということですが、環境省の示している算出法では、作付面積や肥料などから計算することになっています。直播にしても作付面積も肥料も変わらないと思うのですが、どう考えればよろしいのでしょうか。また、同じく代かきで塩化カリを撒くと良いとありますが、この効果についてもお教えいただけないのでしょうか。

林会長：移植栽培では田植え前に代かきをしますが、直播では冬の間に残渣を地中にすき込みます。そのため残渣の分解が早まりメタン発生の低減につながります。また、塩化カリは、泥と結合して塊状になるため、汚泥流出の抑制に寄与します。

神谷力委員：補足いたします。泥水の中に塩化カリの成分を入れますと、泥が沈

殿しやすくなり、その日のうちに上水は白く透明になってきます。汚泥が河川に流れると環境に良くないということで、何十年か前から塩化カリを施用しています。

古居委員：直播の件でお聞きします。私はホタルを育てていて、餌のカワニナを捕りに行くのですが、直播を実施した、とあるほ場で、翌年シジミとカワニナが全滅したことがありました。県や市に連絡しても原因がわからず、直播の時に農薬のような物をたくさん使うと人から聞いたので、それが良くなかったのではと思いました。結局その後は同じようなことは起きませんでした。直播の弊害というものはないのでしょうか。

林会長：カワニナについては、直播は関係ないと思います。水がいつも流れているところでは育ちますが、水が流れなくなると夏場でも冬場でも育たない、というのが実情だと思います。

古居委員：その時は直播直後で水も流れていましたので、直播きのせいではなく何か他に原因があったのでしょうか。

神谷力委員：直播について補足いたします。直播を栽培の中で取り入れている営農は市内でも6、7割いると思います。メリットとして、苗作りが軽減されて、春先の重労働から解放されるということがあります。また、冬場に耕起や代掻きなどができ、作業の分散にもなります。一番のメリットは作業分散ですが、直播栽培のほ場には、ホウネンエビが育つこともあります。昔から、ホウネンエビが湧く田んぼは豊作になると言われております。直播は、除草剤はたくさん使いますが除虫に係る薬剤はほぼ使いませんので、環境にやさしいということができると思います。

杓名委員：個別施策の「せん定枝リサイクルの推進」に、せん定枝を発酵するとありますが、微生物で分解するより、枝自体を炭化して土中に埋めればCO2が削減できて良いと思います。ただし、農家さんが炭を作ると苦情が来ますので、兼ね合いが難しいと思いますが、市としてはどうでしょうか。

事務局：農作業でせん定枝はたくさん発生します。現状では炭にするのではなく、せん定枝リサイクルプラントに持ち込んでいただき、それを堆肥にして再びほ場に戻すという形での資源循環に取り組んでおりますので、ご承知いただければと思います。

杓名委員：法的には、農業を営むためにやむを得ない場合は燃やすこともできると思います。しかし、一般の理解はなかなか得られず、実際農家が炭を作ろうとするとクレームが来る可能性は高いと思いますが、これからの未来を考えると、「炭」も一つの考え方ではないかなと思います。

林会長：実際に炭を作るとは良いことだと思いますが、やはり煙が出ると一般の方から色々と言われたりしますので、そう簡単にはできないのかなと

感じています。確かに炭を田んぼに入れると効果は高いと思いますが、そこまではやれないというのが現状だと思います。

古居委員：私はポーラス炭を使った自然農法、炭を作ってそれを土の中に入れて野菜を作るという農法を行っています。農薬は使わず、炭と堆肥などを畑に入れるだけですが、良い効果が見られ、美味しい野菜が採れています。CO2の削減にはとても良い方法だと思いますので、よろしければ私が昨年からはじめた講座にも参加していただきたいと思います。

林会長：それでは各委員からのご意見も出尽くしたようですので、審議を終了いたします。委員の皆様からいただいたご指摘やご意見を反映させた修正については事務局に一任したいと思います。よろしいでしょうか。

委員：異議なし

林会長：では、修正などは事務局に一任するというので、議題「第3次食料・農業・交流基本計画の素案について」を了承することに異議はございませんか。

委員：異議なし

林会長：異議なしと認めます。よって本議題は了承されました。議題についての審議は以上となります。皆さまのご協力ありがとうございました。

事務局：林会長ありがとうございました。また、皆様から貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。資料説明時にも申し上げましたが、個々の施策はしっかりと進捗を管理していきます。そのための成果指標、いわゆる数値目標というものをしっかり設けて、目標に向かって今どんな状況にあるかというのを毎年この協議会で報告しながら、皆様からご意見をいただきます。成果指標や目標については、次回の会議で改めて説明いたします。

また、このような行政計画を市民の皆様にご覧いただけるような工夫として、市内の農業や食料に係る活動の事例紹介などをコラムとしてお示しいたします。それにつきましても次回の協議会でお示しいたしますので、ご意見をいただきたいと思っております。

なお、環境にやさしい農業のありようについて貴重なご意見もいただきました。本市の農業でも、農薬・化学肥料を使わない、あるいは減らす、ということ長くやってきておりましたが、「環境保全型農業」では温室効果ガスを農業においてもいかに減らすかというのが世界的な課題となっております。ご意見のとおり、CO2を何らかの形で固定し地中に埋める、また、農業に使っていく、というのも一つの技術と思っておりますので、関係機関と情報交換をしながら、そうした温室効果ガス排出抑制の先進的な方法などについて継続的に研究してまいりますので、ご理解のほどお願いいたします。

いたします。その他については、事務局より説明いたします。

事務局：説明

事務局：これもちまして、第2回安城市農業振興協議会を終了いたします。ありがとうございました